

2025.1月発行

第59集

協議会だより



一般社団法人 岩手県訪問看護ステーション協議会 会長 飯嶋 純一



あけましておめでとうございます。岩手県訪問看護ステーション協議会の運営にご理解ご協力を賜わりありがとうございます。昨年起きた能登半島地震で被災を受けた皆様には、1日も早い復興を願っております。

岩手県訪問看護ステーション協議会は、2025年度変革の年になります。昨年設立された岩手県訪問看護総合支援センターと協働しながら運営計画を立てており、4月下旬に開催される総会にてご報告させていただく予定になっております。今後は、訪問看護ステーションのつながりを密にし、利用者への看護の充実を図っていきたいと考えております。各地域での問題点や悩みを共有しながら、解決に向けて単体の訪問看護ステーションが不安を抱えないよう努めていける体制を整備していきます。繰り返しにはなりますが、会員の皆様安心して訪問看護を実践できる協議会作りにも努めていきますので、今後もご支援をよろしくお願いいたします。

北海道・東北地区訪問看護連絡協議会 合同研修会・交流会

2024年11月9日北海道・東北地区訪問看護連絡協議会合同研修会がマリオス18階で開催されました。合同研修会は東北6県と北海道の持ち回りで毎年開催されてきましたがコロナ禍は中止となり、一昨年度から合同研修会が再開されました。研修当日は晴天に恵まれ北海道、東北地区から約100名の訪問看護師、医療関係者が参加されました。関係企業にもご協力いただき、企業ブースを設け情報交換の場となりました。

心不全医療連携ハートノート取り組みの実際との題目で仙台市松田病院栗原氏、仙台循環器病センター庄司氏にご講演いただきました。心不全は急性増悪に伴い入退院を繰り返し徐々にADLが低下していく傾向にあるため、自宅での小さな変化を見逃さないよう訪問時の観察が重要となってきます。また状態の変化、体重、脈拍、自覚症状等点数化し、評価することで早期受診や緊急受診などの判断基準とすることができ、再入院を事前に回避できると期待されています。高齢化に伴い心不全の患者が増加傾向にありますが安心して自宅で療養できるよう様々なツールを使い支援を行っていききたいと思います。



展示・出展企業

- 森永乳業クリニコ株式会社
- 株式会社 eWell (イーウェル)
- 東洋羽毛北部販売株式会社
- フォレスト福祉用具サービス株式会社
- 株式会社メディケア・システム&ノエビアサンドリーム

地区訪問看護連絡協議会



研修会後は「北海道・東北魂を岩手でつなぐ」をテーマにホテルメトロポリタン盛岡NEW WINGで合同交流会が主催され飯島会長のあいさつ、乾杯にて各県の活動報告や情報交換、これからの訪問看護を盛り上げるための活発な意見交換が行われました。各県・道対抗わんこそば大会は個々の見事な食べっぷりに会場は最高潮の盛り上がりで達し最後は岩手協議会メンバーによるさんさ踊りを披露、参加者全員楽しく輪踊りで締めくり大変有意義な交流会となりました。

ご協力いただいた皆様、企業様に心より感謝申し上げます。



内丸病院訪問看護ステーション 熊谷 泰子

さんさ踊りでにぎわう8月3日(土)、アイーナ5階にて精神科訪問看護研修会が開催されました。

講師にもりおか心のクリニック副院長の精神科認定看護師高橋政代先生をお迎えし、「続・10年前の教科書には載っていない精神科看護の話 アルコール依存症看護今昔物語」とのテーマでご講演頂きました。

講演では、疾患や治療、看護の原則の理解を深めるだけでなく、日々の訪問の悩みや疑問に答えていただく時間を可能な限り設けて頂きました。先生の率直なアドバイスを聞き、私達の普段の看護を振り返ることが出来ました。日々の訪問の悩みを共有出来たり、試行錯誤しながらの看護を肯定してもらう場面もあり、とても温かい気持ちになりました。外の暑さにも、さんさ踊りの熱気にも負けない活発な研修会となりました。



管理者研修

管理者研修

「働きやすい職場環境づくり」

〔場所〕 令和6年9月29日アイーナ702



聖路加国際大学講師、東京ひかりナースステーション顧問、佐藤直子氏を講師に「働きやすい職場環境づくり」と題して講演いただきました。

時代に合わせた人材育成の大切さ、働きやすい職場づくりのアドバイスを事例とともに紹介いただき、参加者皆で現在困っていることを具体的にディスカッションし活発な意見交換ができました。佐藤講師のアドバイスで解決の糸口を掴めたのではないかと思います。良い職場環境づくり、人材育成をすることで利用者様に良いケアを提供できることにつながります。研修会終了後には明るい職場の未来が見えました。岩手県の在宅環境の向上のため努力していきたいと思えます。



小児研修

『医療的ケア児に携わる
訪問看護師等の看護職の交流会』

〔日時〕 R6年8月24日(土)11:00～14:00

〔場所〕 岩手県看護協会研修センター 3階研修ホール

今回の研修は訪問看護ステーション協議会与看護協会の共催で行われました。

岩手県医療的ケア児支援センター 医療的ケア児等コーディネーター 大力 聡美 講師

訪問看護ステーションはなえみ 主任看護師 特定行為研修修了者 中平 香奈 講師

2名の講師による講演とその後交流会を実施しました。

厚労省によれば、在宅で過ごす医療的ケアを要する児(0～19歳)は増加傾向にあり、約2万人を上回ると推計されています。岩手県でも同じように増加傾向であると把握しています。訪問看護は、そうした医療的ケア児の暮らしをサポートする重要な社会資源の一つです。

ニーズの拡大やその切実度を考えれば、今後一層多くの訪問看護師が医療的ケア児への関りを増やしていくことが望まれてくるのは必須です。しかし、現場には小児へのケアに習熟した看護師だけが集まるわけではありません。

この研修では、医療的ケア児に携わる訪問看護師等の情報の共有を目的とし、今後積極的に医療的ケア児に関わることが出来るような後押しを目標とするものでした。

研修内容は大力氏の岩手県医療的ケア児支援センター医療的ケア児等コーディネーターとしての活動内容の紹介と関わっている事例、今後の活動目標についての紹介、中平氏はステーションでの実際の医療的ケア児への関りの事例紹介、医療的ケア児の家族構成や疾患の傾向、サービス内容の傾向などの統計の発表、更に医療的ケア児への特定行為の実施によって通院の回数が半分に、本人家族の負担軽減につながったケースなどの発表でした。

受講生の満足の内容であったとのアンケート結果から、参考になった研修と評価できます。今後、医療的ケア児への理解と関わりたいステーションが増えてくるのではないかと感じられる内容がアンケート結果から見えてきました。



●現地参加 10名 ●zoom参加 30名

沿岸ブロック研修

沿岸ブロック研修会10月26日(土)陸前高田コミュニティセンターにて「ACPを考える」と題して岩手県立大学看護学部成人看護学講師、がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師の高屋敷麻里子先生を講師に研修会が行われました。

ACPと意志決定支援の違いを理解できた研修会となり看護師は共感する態度が重要である、NURSEコミュニケーションスキルを身につけて支援したいと思いました。講師の先生が体験した事例をもとに講演いただきACP支援が身近に感じられた研修会となりました。



「特定行為看護師の役割」

東水沢訪問看護ステーション
佐藤 裕子



特定行為研修を修了したくくる花巻訪問看護ステーション看護師佐藤由美子さんに講師をしていただき、特定看護師の必要性について話がありました。佐藤さんの研修時の写真紹介もあり具体的にわかりやすく、イメージできる内容でした。

特定看護師はまだ少ないようですが、看護師の特定行為が知られておらず手順書の発行がない、特定行為看護師の立場が明確化されていない等の課題のお話もありました。

今後、特定看護師の活動がスムーズになるようなシステムの構築が必要だと感じました。

研修会後は交流会を行い各事業所ではどうしているのかな?をテーマに実情について意見交換しました。顔を合わせての話は盛り上がり訪問看護ならではの、を分かり合える楽しい時間になりました。

中央A・Bブロック研修

内丸病院訪問看護ステーション 鎌田 眞紀



11月30日アイーナ802を会場に、中央A・Bブロックの研修会が行われました。講師にフラワーアレンジメントいわての先生をお招きし、フラワーアレンジメントを実際に体験しながら、同じ地域で訪問看護をしている会員同士がそれぞれのステーションでの話を持ち寄り意見交換しました。現状や困っていることなどを共有し答えを導きだしたりなど、お花の匂いや穏やかな空間が心地よい環境となり活発な意見交換となりました。先生からお花に対する心得を教わり、この気持ちを持ちながら訪問看護にも勤しむといいいのではないかと思います。同じお花を使って活けましたが個性豊かなフラワーアレンジメントが出来上がりました。

日頃時間に追われ横のつながりもなかなかできない私たちですが、心が癒される研修会でした。

新規入会ST紹介

訪問看護ステーションポラリス 管理者 吉田 久子

訪問看護ステーションポラリスは、令和3年5月1日に開所した看護師4名、作業療法士1名の小さなステーションです。当ステーションは「看護・介護に対する思いは人それぞれであって、迷いながらも最後はみんな同じ方向・同じ星（ポラリス）に向かい、使命感・情熱をもって進もう!」という株式会社ポラリスの代表の思いを心に、訪問看護サービスを提供しております。

理念：住み慣れた環境で、利用者様とご家族の尊厳を大切に、安心して笑顔で過ごしていただけるように支援する。

特徴：特定疾患の方、癌末期のターミナルケア、在宅酸素、吸引、人工肛門、尿管カテーテル、点滴など医療依存度の高い方から、作業療法士による日常生活動作の訓練、住宅改修や福祉用具のアドバイス、高次脳機能訓練など専門性の高いリハビリを提供いたします。

訪問看護ステーションポラリスは「スタッフ一人ひとりが自信を持って看護が提供でき、利用者様、御家族様、サービス関係者から信頼してもらえる存在になること」を目標に、利用者様を支える多職種との信頼関係のもと、適切に連携できるよう努めています。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



編集後記

盛岡城跡三ノ丸北西部の石垣積み上げ工事が完了。積み上げた石は一つ重さ1トン程、343個の石を従来の状況に積み上げ直し再現、気が遠くなるような作業だったことでしょう。江戸時代の石垣に思いを馳せ、時の流れを感じました。



2000年に介護保険制度が始まり25年、今後も在宅医療や在宅介護のニーズが高まって来ると予想されます。未来の在宅医療、介護のため今年も地道に時を刻んでいこうと思います。

第59集 協議会だより 1月号

発行所：一般社団法人
岩手県訪問看護ステーション協議会
〒028-0883
盛岡市志家町2-14ピュアダイコーⅡ102
(有)アイエスサプライ内
TEL:080-2369-0425 FAX:019-656-9040
E-mail:iwate-st-k2023@houkan-iwate.com
URL: <https://www.houkan-iwate.com/>
発行人(広報):上澤 真樹(訪問看護ステーションらら)